

ぼいす

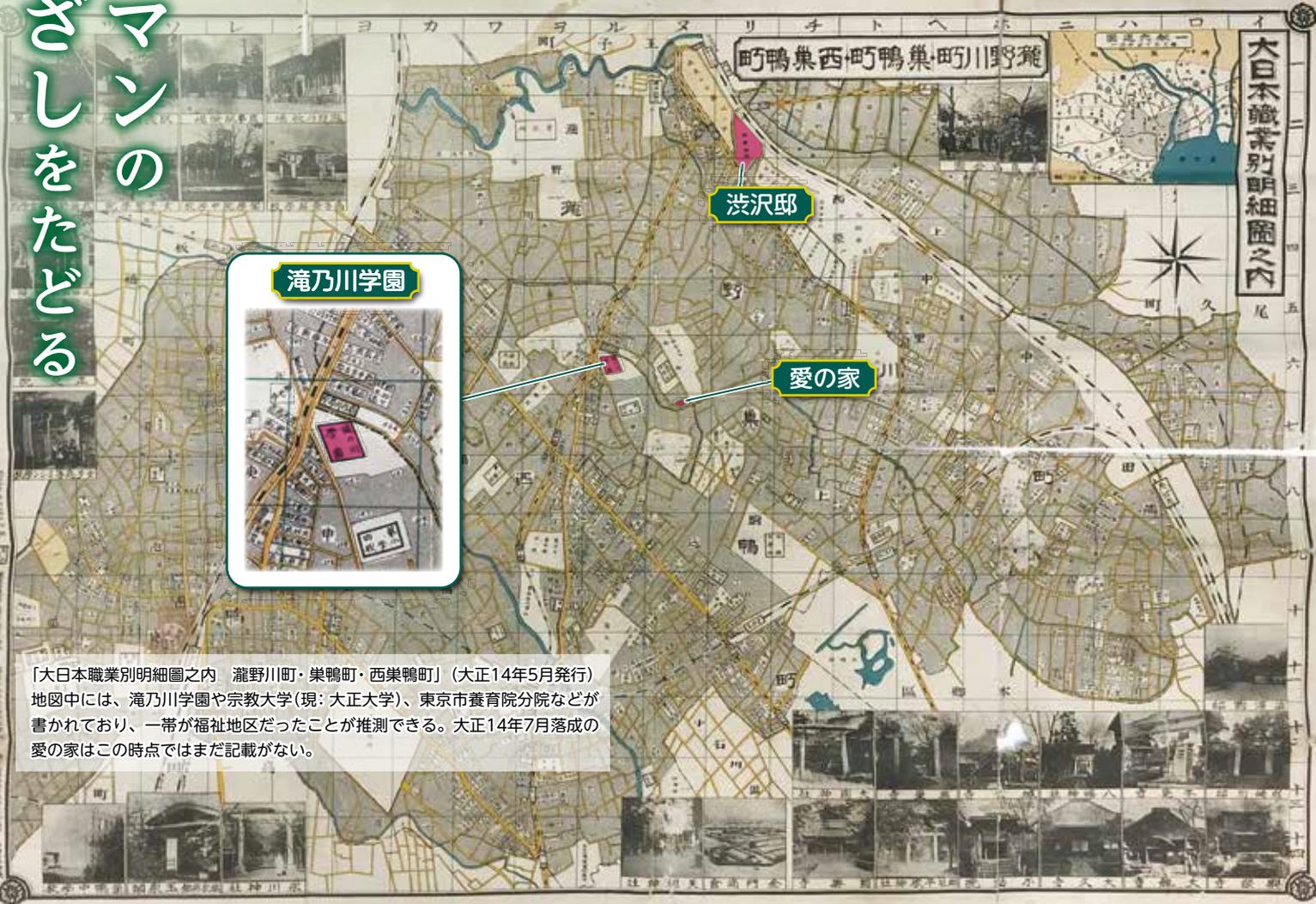
北区飛鳥山博物館だより
2021.9.20

47

グランドオールマンの
やさしいまなざしをたどる



「飛鳥山の渋沢邸にて」(昭和2年) 社会福祉法人滝乃川学園所蔵
前列中央に渋沢栄一とグリフィス夫妻、一番右に滝乃川学園を創設した石井亮一の妻で教育者の石井筆子。



滝乃川学園

渋沢邸

愛の家

「大日本職業別明細圖之内 瀧野川町・巢鴨町・西巢鴨町」(大正14年5月発行)
地図中には、滝乃川学園や宗教大学(現:大正大学)、東京市養育院分院などが
書かれており、一帯が福祉地区だったことが推測できる。大正14年7月落成の
愛の家はこの時点ではまだ記載がない。

大日本職業別明細圖之内

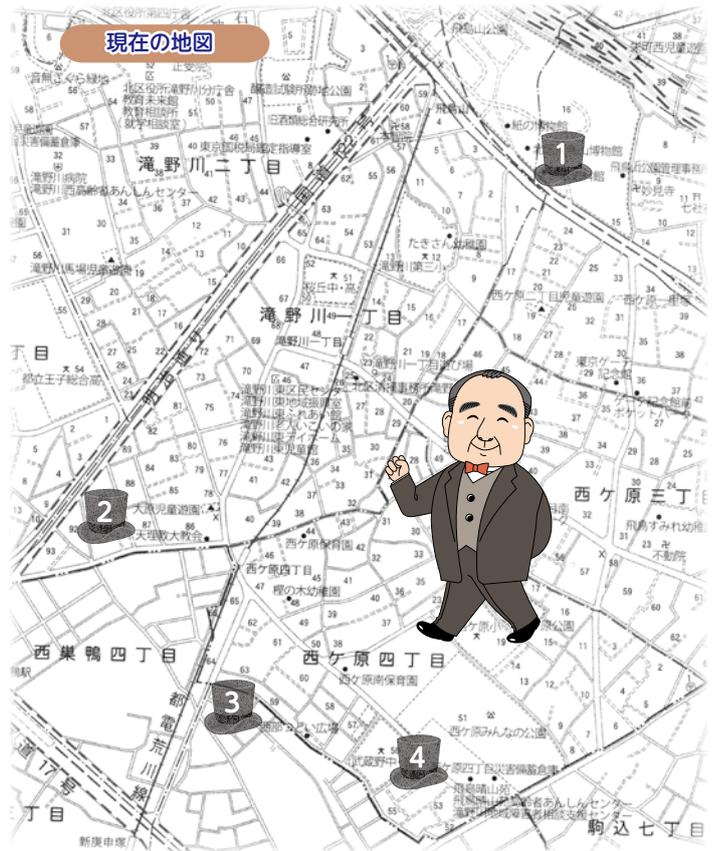
『ばいす』46号に引き続いての渋沢栄一特集！今回は渋沢と社会福祉にスポットをあてます。

渋沢と言えば実業界での活躍が有名ですが、社会福祉の考え方がまだ十分に進展していなかった近代日本で、「公益」のために担った役割も非常に大きなものでした。

渋沢は、“富豪は社会に尽くすべき”で、“富豪が慈善事業に投じる資金は出来心や見栄からではよくない”という考えをもっていました(『青淵百話』)。そのため、渋沢自身が実業家として成功して得た財産や名声、彼がもつ知識などは、積極的に公益のために使われました。

76歳で実業界を引退してからも、生涯を通じてさまざまな形で社会福祉事業に寄り添い続けた渋沢。その中には、北区との関わりをもつ活動や団体もあります。

今回ご紹介する場所に建物は現存していませんが、北区やその周辺地域での渋沢の公益へのまなざしをたどり、実業界での活躍とは異なる視点から渋沢を知っていただく機会といたしました。



1 飛鳥山・渋沢邸

北豊島郡滝野川町西ヶ原(王子飛鳥邸)

大正12年(1923)9月1日の関東大震災に際して、滝野川町では、食品の調達や配給が難しい状況に陥りました。渋沢は、埼玉方面から食糧品を取り寄せ、飛鳥山邸に「滝野川町食糧配給本部」をおき、行政や地域の団体と協力しながら震災救援活動をおこないました。

2 滝乃川学園・学園名由来の地

北豊島郡滝野川村大字滝野川743

当学園は、石井亮一が明治24年(1891)に発生した濃尾大地震での被災少女を保護したことに始まります。この中に障がいをもつ子どもがいたことから、亮一は知的障がい児教育と研究に力を注ぎ、明治30年(1897)に前身を改称、日本初の知的障がい児教育施設「滝乃川学園」を誕生させました。

3 滝乃川学園・移転地

北豊島郡柴鴨村字庚申塚126(移転時)

児童数増加や周辺環境の変化から、明治39年(1906)4月に滝野川村から移転しました。学園は財政の安定化や組織の近代化を図るため、大正9年(1920)に財団法人化し、翌年には渋沢を理事長に迎えました。渋沢は、亮一・筆子夫妻が教育に専念できるように、財政面から学園を支えました。

4 愛の家

北豊島郡滝野川町西ヶ原518

煙山ヤエ、塚原ハマ、新渡戸コトが、関東大震災で被災した母子の保護を行うために設立。大正14年(1925)、柴鴨上富士前から滝野川町西ヶ原に移転しました。渋沢と愛の家は、新渡戸稲造伝いに設立当初から縁があり、会計を渋沢事務所が担当するほか、渋沢自身も顧問をつとめました。また、移転に際して煙山は渋沢に、土地貸与の件で滝野川町長への仲介を依頼するなど、財務面以外でも協力を得ていました。

渋沢栄一が関わった主な社会福祉事業

※下記では一般的に広く知られている名称を使用し、法人名などは省略しました。 ※赤字が北区と関わりのある団体

- 養育院／院長など
- 中央慈善協会／会長
- 福田会／会計監督・名誉顧問
- 東京府慈善協会／顧問
- 博愛社(日本赤十字)／社員・議員・存続斡旋など
- 恩賜財団済生会／寄付金募集世話人、顧問、評議員など
- 東京慈恵会／相談役・委員など
- 滝乃川学園／理事長
- 聖路加病院／評議員・会計監督
- 愛の家／顧問

・・・など、その数およそ600！！



令和3年(2021)6月1日から7月4日まで、渋沢栄一と国指定史跡「西ヶ原一里塚」保存のかかわりを紹介する展示を開催しました。滝野川警察署近くに所在する西ヶ原一里塚は、道の両側に当初の位置で保存されている、都内でも数少ない貴重な史跡です。大正時代、東京市の道路整備事業により取り壊される危機に直面しましたが、西ヶ原在住の渋沢栄一ら地域の人びとの働きかけにより保存されました。そして渋沢栄一はこのことを後世に伝えるために、大正5年(1916)に「二本榎保存之碑」を建てたのです。

会場では、一里塚保存の経緯や「二本榎保存之碑」の文章を作成した三上参次の書簡、碑に込められた渋沢栄一の思いを紹介しました。明治・大正・昭和時代の西ヶ原一里塚の写真や記念絵葉書、「二本榎保存之碑」・「飛鳥山碑」の拓本を展示し、会場入口では「二本榎保存之碑」の実物大パネルを設置しました。

新型コロナウイルス感染が収束しないなか、会期を短縮しての展示でしたが、3,088名のご来場をい

ただき、大河ドラマの好調とともに渋沢栄一への関心が高まりつつあるのを実感しました。小中学生の姿も多くみられ、会期中で小学生向け解説パネルを追加しました。渋沢栄一については、今後も色々と発信してまいりますのでご期待ください。

西ヶ原一里塚は、飛鳥山公園から徒歩5分ほどです。当館へお越しの際には、ぜひお立ち寄りください。
(田中・山口)



イベント直前レポート

コロナに負けない！夏休みわくわくミュージアム



昨年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策で夏休みわくわくミュージアムは大幅な変更を余儀なくされました。普段おこなっていた展示や体験講座、ぬりえコーナーなどを中止にせざるを得ませんでした。そこで考えたのが、おうちにいながら博物館を楽しめる「おうちde博物館」。8種類の体験キットなどを製作し、販売、配布をしました。作り方の動画も製作してYouTubeにアップもしました。

さて、今年はどうと、コロナが収束していないことを踏まえ、昨年度同様「おうちde博物館」をベースに考えました。東京都の指針や北区の方針にしたがって安全対策をとって、これまでのスタイルの展示や体験講座を準備しました。区内の小学校の全校全児童配布用のチラシも刷り上がり、さあ、発送となりましたがコロナは収まりを見せず、止む無く講座は中止。安全対策を講じていても接触機会がある講座は中止にせざるを得ませんでした。でも一歩前

進。展示と常設展示室で行われるクイズラリーは実施し、昨年同様工作キットの販売を急遽決定しました。担当は大忙しで準備をしています。なんとかみなさんに夏の“わくわく”を少しでもお届けできそうです。さて、その結果やいかに。7月21日の開幕が楽しみです。

(7月18日・記/鈴木)



YouTube 事始め

4月から5回にわたり、北区飛鳥山博物館ちゃんねるでは、動画「渋沢栄一と北区」シリーズを配信しました！皆様はもう、ご覧になったでしょうか。前回のぼいすでも、YouTubeを使った動画配信についてお知らせしましたが、今年度に入り、展示のダイジェスト動画や夏休みわくわくミュージアム関連の動画、常設展示室の資料紹介動画などを、学芸員一丸となって配信するようになり、ようやく北区飛鳥山博物館ちゃんねるが本格始動したなと感じています。

初歩中の初歩だと思われるでしょうが、編集作業をしていると、「人気の動画にはわかりやすく字幕がついている」ということや、「サムネイル画像で動画の内容がわかると観たくなる」など、多くの気づきもあり、配信している動画も様になってきたように思います。

しかし、公立の地域博物館からの情報発信になりますので、どうしてもまじめな内容にせざるを得な

いという悩みもあります。YouTubeの良さは、よりリアルな、生っぽさを感じられることですので、このバランスを考えつつ、楽しく北区の歴史や文化に触れられるような動画づくりをしたいところです。

ちなみに、昔の遊びを子どもたちに紹介するため『「学芸員が本気で缶けりやってみた！」とかどうですか？』と(半分冗談、半分本気で)提案したところ、満場一致で没となりました。(工藤)



北区飛鳥山博物館
ちゃんねる



VOICE

「博物館の顔選びの苦悩」

博物館でチケットを購入すると、当館展示案内とともに展示や講座情報を掲載した、1冊のパンフレットをお渡しします。パンフレットの名は「北区飛鳥山博物館 催し物案内」。年4回、それぞれ春夏秋冬になぞらえて発行しており、実は、この催し物案内の作成・発行も私たち学芸員の重要な仕事の1つなのです。

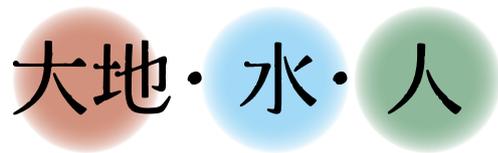
ご来館の皆様にご来館で開催される様々な催しを発信する役割を担う催し物案内。これこそ私は、ご来館の皆様がチケットと展示案内とともに最初に受け取るものであり、ご帰宅される最後の時までお手元に残るもの、つまりご来館の記憶の1コマとなりうるものと考えています。だからこそ、

催し物案内作成では常にお客様の記憶に残るようなものにしなければなりません。特に悩ましいのが表紙…

表紙はまさに一番目に留まりやすく、博物館の顔として最も印象が残るものを選ぶ必要があります。ある時は展示資料、ある時は季節に応じた浮世絵。浮世絵でも絵によっては一部を抜粋して掲載せざるを得ず、そうするとどこを切りとるかはまさに編集者のセンスが問われます。

今回は冬号です。冬にまつわるとの浮世絵にしようか、既に検討中です。もしお手に取られた折には、皆様の記憶に残る1冊となっておりますら幸いです。(谷口)

河川改修で失われた遺跡とその後



牛山 英昭(当館学芸員)

大正7年(1918)に発行された『武蔵野』第2号に、「豊島の里」と題された記事が掲載されている。雑誌『武蔵野』を刊行する武蔵野会(代表者は鳥居龍蔵)の研究旅行の報告がその内容であるが、そこに次のような話が出てくる。

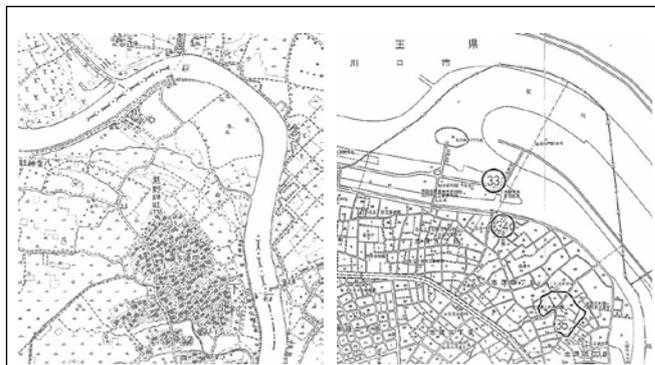
「…赤羽の本通りに出で岩淵小学校に寄る。荒川新川開鑿工事に当って熊野神社から二町程の切取り工事の所から出たと云ふ弥生式土器の破片を一覧した。荒川に沿ふた斯かる低地に遺跡の在る事は大に研究ものである。…」

「荒川新川開鑿工事」とは、明治43年(1910)に発生した大水害を機に計画された荒川の河川改修工事のことで、これによって現在の荒川の下流部には荒川放水路が設けられ、岩淵水門より下流側の荒川本来の流れは「隅田川」に名称を変え、東京湾へと注いでいる。武蔵野会の一行が目にした「弥生式土器」(注)は、この工事中に発見されたものであろう。

こうした過去の記録などから、現在の北区の遺跡地図には、熊野神社北方遺跡と熊野神社遺跡という2つの遺跡が載せられている。前者は、先の「熊野神社から二町程の切取り工事の所」の記述より、新たに流路が開鑿された現在の岩淵水門付近に、後者はその名のとおり熊野神社付近に、それぞれの位置が落とし込まれている。しかし両遺跡とも本格的な発掘調査が行われることはなく、詳細不明のままとなっていた。特に、熊野神社北方遺跡にあつては、もはや河川改修工事によって失われてしまったとみられる遺跡であり、その実態に迫ることはまずないものと思われていた。

ところが3年前、熊野神社遺跡で本格的な発掘調査を実施する機会が巡ってきた。調査地点は熊野神社の社殿があるすぐ北側の敷地で、いざ発掘調査が始まると、そこに現れたのは古墳時代前期の集落跡だった。荒川下流域の沖積低地内には、弥生時代後期から古墳時代前期の集落遺跡が点在するが、熊野神社遺跡もこれらに加わる一遺跡であることが確認されたのである。

熊野神社遺跡の調査地点のすぐ北側には新河岸川が



左は河川改修前(明治42年頃)の熊野神社周辺の地図(中央に熊野神社)、右は現在の遺跡地図(33:熊野神社北方遺跡 34:熊野神社遺跡)。荒川の流路が、大きく変わっていることがわかる。二つの遺跡の間を流れる新河岸川の流路は、かつては存在しなかった。

流れ、新河岸川を挟んだ北側には熊野神社北方遺跡がある。この新河岸川の流路も、実は新たに開鑿されたものであり、元々そこにあつたものではない。つまり、地図上では分断された二つの遺跡だが、本来は地続きにあつたものであり、一連の遺跡であつた可能性が高い。したがって、熊野神社遺跡の発掘調査で確認された集落跡は、熊野神社北方遺跡の方へと広がっていたと推測される。

熊野神社遺跡の発掘調査から一年後の令和元年(2019)10月、台風19号が東日本を襲った。埼玉県内では荒川やその支流域において、水害に見舞われるところが多々あつた。一方で北区を含む東京低地では、そこまでの被害がなく済んだが、もし河川改修工事が行われていなければ、東京低地にも甚大な被害がもたらされていたのかもしれない。改修工事の際に土器が採集され、それによって認識された熊野神社北方遺跡は、いわば工事の代償として失われてしまったことになるが、約100年という時を経て、熊野神社遺跡での発掘調査において、同じ集落跡の一端として初めてその姿を垣間見させてくれたのである。

(注) 昭和5年(1930)刊行の『岩淵町郷土誌』に、「岩淵水門の附近の工事中に出土したとされる土器の写真が載せられている。モノクロ写真のため詳細は不明だが、古墳時代の土師器の可能性もある。



モノの記憶

「日本鉄道株式会社鉄道線路縦断面図」

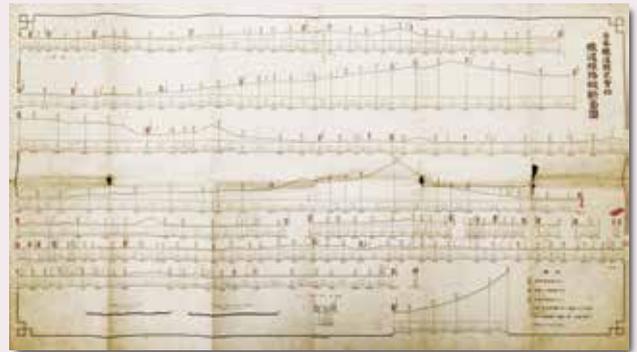
新橋駅から横浜駅間の鉄道開通から9年後、明治16年(1883)に上野駅から熊谷駅間の路線(現在の東北本線)が開通し、現在の北区内に初めて鉄道が通りました。この路線を開通させたのが私鉄の日本鉄道です。

日本鉄道は西南戦争などによる国の財政ひっ迫を受け、民間資本を採用した鉄道敷設を進めるために設立された会社で、設立時には渋沢栄一が理事委員の一人として参画していました。その後は現在の東北本線や常磐線など関東から東北地方にかけての主要路線を開業、他の私鉄を買収するなど路線網を拡大し、明治39年(1906)11月に国有化されるまで、日本の私鉄では最大の路線網を有していました。その保有路線全線と全線の高低差がわかる資料がこの鉄道路線縦断面図です。

資料内で池袋駅から田端駅間(現在の山手線)が建設途中路線とされていることから、年代は明治35年(1902)末～明治36年(1903)初め頃のもの

と推定されます。資料からは路線網の広大さはもちろん、日光(栃木県)や奥中山峠(岩手県)といった急峻な山岳地など、難所を通過する区間があることも読み取れます。

当時の工事技術で難所を越えるだけでなく、東日本の各地へ鉄道網を拡大させ、その後140年近く続く人や物の流れを築いたことを考えると、日本鉄道の「大きさ」はこの断面図に収まりきらないものになるでしょう。(大久保)



日本鉄道の保有路線全線の高低差がわかる縦断面図

写真で見る あの日、あの時

「再現した古写真？」

いったい、いつの写真なのでしょう？古めかしい白黒写真に写っているのは、思い思いのポーズをとった和装の女性たちです。よく見ると、画面には「飛鳥山」と書かれた灯籠があるので、撮影場所が判明します。

実はこの写真、一昨年(2021)の6月25日に、秋期企画展準備のため幕末明治初期の技法で撮られた「古くて新しい」写真なのです。撮影者は、和田高広氏(Light&Place湿板写真館代表)、この世界では知る人ぞ知る湿式コロジオン写真の第一人者です。

コロジオン写真とは、ガラス板の上に感光乳剤であるコロジオン液を塗布し、湿った状態で撮影、現像、定着処理を行う方法です。厳密に露光時間を測りながらの撮影は、デジカメに慣れた現代からは考えられない長時間の作業でした。また、気温30度



近いなかでの野外撮影、当館講堂に準備した暗室での現像は難儀を極めました。

モデルになって頂いたのは日本舞踊家集団「おどりの空間」の皆さんです。さすがに佇まいも仕草も堂に入っています。思えばこの写真に写った場所こそ、かつて渋沢栄一の本邸のあった地点。さながら明治の貴婦人たちが今に蘇った感さえするのも、コロジオン写真特有の「時代の空気感」によるものといつて過言ではありません。

再現撮影をして初めてわかる貴重な瞬間でした。(石倉)

学芸員の本棚

江戸遺跡研究会編
1991『甦る江戸』新人物往来社



みなさんは「考古学」と聞いて何を思い浮かべますか。おそらく、多くの方が縄文土器や弥生土器または竪穴住居など、原始・古代の遺物や遺構を思い浮かべるのではないのでしょうか。しかし、考古学は特定の時代に限定されることなく、モノから人類の歴史を研究していく学問です。そのため、中世や近世、さらには近代も当然のことながら考古学の対象となりえます。今回紹介する著書は、そのなかでも江戸時代について考古学的視点から追究している一冊になります。

1980年代から90年代にかけて東京都心部では再開発に伴い、江戸時代の遺跡の発掘調査が急増しました。その結果、それまで文献史や美術史、建築史などから研究されていた江戸時代が、考古

学の側からも研究できるようになりました。本著はそのような調査成果に基づき、10名の著者たちが様々なテーマに沿って江戸時代の歴史像に迫っています。そのなかの一部を挙げると、大名屋敷の調査による大名藩邸の空間構成の復元、寺院の墓地の調査による江戸時代の墓制についての考察、遺跡出土の陶磁器からみた江戸時代の物資流通などのテーマがあり、当時における最新の発掘調査成果を取り入れながら紹介しています。

江戸時代の遺跡を扱った一般向けの著書が少ないなかで、本著は江戸時代の考古学(近世考古学)を知るためにおススメの一冊です。

(高坂)

博物館インフォメーション

◆人物往来

4月1日より、佐々木優学芸員、大久保輝優学芸員が着任いたしました。今後講座などでお目にかかるかと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



佐々木



大久保

◆ミュージアムグッズ紹介



水平開き®ノート(飛鳥山花見)
1冊・350円

区内印刷所とコラボした1冊！SNSでも大きな話題となった水平開きノートがついにミュージアムグッズになりました。表紙は、当館所蔵の人気浮世絵作品「飛鳥山花見」です。

水平開きノートは、その名の通り水平に開くため、使用する際のストレスが少なく、見開きにすると紙面を広く使うことができます。使い勝手も見栄えも抜群なオリジナルノート、ぜひ当館でお求めください！

◆がんばる！実習生



浮世絵の調査中。
資料を触るのは
ちょっと緊張…

今年の夏も、学芸員資格取得を目指す実習生4名が当館で実習を行いました。博物館で行われたさまざまなプログラムを通して、学芸員に必要なスキルを学びました。

北区×青天を衝け 大河ドラマ館開館中です！

NHK大河ドラマ「青天を衝け」の放送も残り3ヶ月と少し…。みなさんは渋沢翁の終の住処である飛鳥山で開館中の大河ドラマ館にお越しいただけましたか？大河ドラマ館は、大河ドラマと同じく令和3年12月26日(日)までの開館です。

なお、大河ドラマ館のチケットをお持ちのお客様は、1枚につき1回、北区飛鳥山博物館の常設展示を無料でご観覧いただけます。常設展示ご観覧の際は大河ドラマ館チケットの半券を係員にお見せください。

※大河ドラマ館の詳細は、公式HP(<https://taiga-shibusawa.tokyo/>)または、東京都北区大河ドラマ「青天を衝け」活用推進協議会(電話：03-3908-1364/東京都北区役所シティプロモーション推進担当課)までお問い合わせください。

博物館

いろは歌留多



く道を
違わず歩め

霧晴れる先

昨年早々から続く新型コロナウイルス感染拡大。正直なところ、当初はそれほど長期戦になるとは思いませんでした。

思えば昨年は博物館活動のすべてが五里霧中で、講座・講演会はすべて中止に…。今年度こそは！と感染対策も入念に、やる気まんまんで野外講座や体験講座を企画しましたが、これも繰り返される緊急事態宣言のなかで実施を断念しました。私たちが残念でしたが、申し込んでいただいた方々に中止のお返事を送るのはとても心が痛みました(ごめんなさい…)

この約1年半、当館でも講座などの催しに代えて、積極的に解説動画を自主制作・配信したり、SNSで頻繁に情報発信したりと、「今」を乗り越える取組みをしてきました。

しかし、長いWithコロナを経て、Beforeコロナとは異なる価値観や行動様式がAfterコロナの時代に定着していくのだとしたら、博物館もこれから本腰を入れて新たに目指すべき方向を見出しなければなりません。コロナという岐路に行んではいけませんね。(久保埜)

令和3年度下半期の催し物案内

「第20回 人間国宝奥山峰石と北区の工芸作家展」のお知らせ

今年も、北区在住の人間国宝・奥山峰石氏をはじめ、北区と繋がりのある工芸作家19名による展覧会を開催します。本展では、鍛金・彫金・鍍金・陶芸・人形・木漆・七宝・漆芸・刺繍など、多彩なジャンルにわたる創造性あふれる作品が一堂に展示されます。魅力あふれる作品を、ぜひご鑑賞ください。

会期

9月11日(土)～
10月10日(日)

会場

北区飛鳥山博物館3階
※例年と会場が異なります。
ご注意ください。

主催：東京都北区教育委員会
共催：東京都北区
協賛：一般社団法人王子青色申告会



下半期の講座についてお知らせ

下半期の講座につきましては、北区飛鳥山博物館のホームページや北区ニュースをご覧ください。

利用のご案内

開館時間

大河ドラマ館の開館にともない、時間が時期によって異なります。

7月2日(金)～10月3日(日)	午前9時～午後6時
10月5日(火)～12月26日(日)	午前9時～午後5時
令和4年(2022)1月5日(水)～	午前10時～午後5時

休館日

- ・毎週月曜日(月曜日が国民の祝日・休日にあたる場合は開館し、直後の平日に振替休館)
- ・年末年始(12月28日～1月4日)
*このほかに臨時休館日があります。

常設展観覧料

	個人	団体	三館共通券※
一般	300円	240円	800円
高齢者(65歳以上)	150円★		
小・中・高	100円	80円	320円

- ・小学生未満は無料
- ・障害者手帳をご提示いただいた場合は、一般券を半額でご利用になれます。(障がいのある方お一人につき、介助者1名まで観覧料が免除になります。)
- ・団体扱いは20名以上
- ★年齢が確認できる証明書をご提示ください。
- ※令和3年8月現在、三館共通券の販売を休止しています。



交通のご案内

- ・JR京浜東北線 王子駅南口より 徒歩5分
- ・東京メトロ南北線 西ヶ原駅より 徒歩7分
- ・東京さくらトラム(都電荒川線) 飛鳥山停留場より 徒歩4分
- ・都バス(草64、王40系統) 飛鳥山停留所より 徒歩5分
- ・Kバス(北区コミュニティバス) 飛鳥山公園停留所より 徒歩3分

※飛鳥山公園に隣接して有料駐車場がございます。

編集後記

ぼいす47号をお届けします。昨年来、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、講座を開催することができておりませんが、博物館は開館中ですので、ご来館の際は感染症対策をしてお運びください。

なお、本号の製作にあたり、社会福祉法人滝乃川学園様ならびに社会福祉法人愛の家保育園様にご協力を賜りました。記してお礼申し上げます。(佐々木)

北区飛鳥山博物館だより ぼいす47

- [発行日] 令和3年9月20日
- [編集・発行] 北区飛鳥山博物館
〒114-0002 東京都北区王子1-1-3
電話：03-3916-1133
- [印刷] 株式会社 清光社